

第3学年 国語科学習指導案

令和2年11月5日(木) 3校時

指導者 山口 佳恵

場所 3年2組教室

1 単元名 ローマ字(光村図書 3年国語 上「わかば」)

2 授業の構想

本学級の児童は、これまでに身近な場面でアルファベットを目にして生活してきている。アルファベットの読み方や書き方を知っている児童もいる。しかしながら、多くはローマ字が日常生活のどのようなところで使われるかということや、ローマ字の読み方や書き方を知らない児童がほとんどである。

本単元は、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができることに重点を置いている。また、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを見たり、コンピュータを使ったりする機会が増えるなど、ローマ字は児童の生活に身近なものになっていることに気づくことができることもねらいとしている。

指導に当たっては、まず、正しくローマ字を習得できるようにするために、繰り返し練習を重ねる。その上で、ICT機器を効果的に使用したい。プログラミング学習と関連付けて、SCRATCHの中でローマ字の会話文をやり取りするプログラムを作って実行させる。そうすることで、ローマ字への興味関心をより喚起させたい。特に本時において、登場人物がローマ字でやり取りをする場面を設定し会話を考えることで、さらにローマ字に慣れ親しむことができるようにしたい。生活の中での活用につながることを期待している。また、登場人物が会話をやり取りするプログラムを作ることで、プログラミングの楽しさを感じたり新たな発見をすることができたりすると良い。

3 ねらい

SCRATCHの中で会話文をやり取りするプログラムを作って実行することで、ローマ字で表したりローマ字を読んだりすることができる。

4 展開(本時6/6)

学習活動・内容	教師の働きかけ	評価
1 前時までの復習をする。	○ SCRATCHを使ったねことカニのやりとり(一往復)のブロックを確認する。	
2 本時のめあてを確認する。	□ ローマ字でもっとお話しさせてみよう	
3 ローマ字での会話を考え、一往復半のやりとりをする。	○ ワークシート上で、ねことカニのやりとりをローマ字であらかじめ書いておく。	

<p>りとりができるプログラムを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローマ字で表す会話文 ブロックの複製 「見た目」ブロックの使い方 	<p>おくことで、入力の手助けとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローマ字で会話をあらわすときの約束を確認する。 ブロックを複製することで、繰り返しのやりとりができることを知らせる。そうすることで、一往復半のやりとりから、二往復のやりとりへ関心がもてるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 会話をローマ字で正しく表したり読んだりすることができるか。 プログラミングを通して、進んでローマ字で表したり読んだりすることができる。
<p>4 二往復のやりとりができるプログラムを作る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート上でやりとりをあらかじめ書いておくことで、スムーズに入力できるようにする。困っている児童を取り上げて、分かったことから全体へ広げていきたい。 	
<p>5 本時をふりかえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分かったこと、できたことを取り上げてローマ字で表すことができたことへの達成感を感じさせたい。 	

5 考察

今回、初めて国語科においてプログラミングを取り入れた授業を行った。以下、感じたことや今後への課題等についてふりかえてみたい。

(1) 子どもたちの姿から

本時の学びの様子を見ていると、子どもたちは一様に意欲的に取り組んでいたことが伺えた。しかしその中にはやはり個人差もある。難しい課題に向かい、「どうやってやるん?」「ここはね…」というやり取りがあちらこちらで聞かれ、自然と学び合う姿が見られた。

(2) 各教科の中でのプログラミング教育のあり方

本時では、ローマ字で文章をつくることと、画面に表示された動物がローマ字の文をやりとりするようなプログラムをつくるという、2つの大きな課題があった。結果、1時間の授業の中で2つの課題は多すぎてしまって子どもたちは、消化不良になっていた。本時においては、やはりローマ字で文章をつくることと、やりとりするようなプログラムをつくるということはやはり時間を分けて行うことが必要だった。欲張らず、ローマ字に親しみ、使えるようになることが本来の目的だということに、立ち返らなければならない。各教科においては、各教科のねらいが確実に達成できるという内容の中で、プログラミングの要素を取り入れていく、ということが重要だと思う。

